

創立 1980年10月8日



# ROTARY CLUB OF SAKAI NORTH

## 第2640地区 堺北ロータリークラブ週報

事務所 〒590-0940 堺市堺区車之町西2丁1番30号 ポピア南海3階302号

Tel (072) 223-2300 番 Fax (072) 223-5005 番

URL : <http://www.sakai-kita.jp/>

E-mail : [snrc@jasmine.ocn.ne.jp](mailto:snrc@jasmine.ocn.ne.jp)

例会日 毎週金曜日 午後0時30分

例会場 南海グリル 天兆閣別館 4階「ローズ」 Tel:(072)222-0131 番(代表)

ガバナー(第2640地区) : 福井 隆一郎

ガバナー事務所 URL : <http://rid2640g.com/fukui/>

E-mail : [fukui2016@wind.ocn.ne.jp](mailto:fukui2016@wind.ocn.ne.jp)

会長: 中田 学 幹事: 笹山悦夫 広報委員長: 坂田兼則 編集者: 坂田兼則

四つのテスト 言行はこれに照らしてから 1.真実かどうか 2.みんなに公平か 3.好意と友情を深めるか 4.みんなのためになるかどうか

### 本日の例会

2017年5月12日(金)第1752回

卓話 「テーブル会議」

議題 次年度予算について

今週の歌 「君が代」「奉仕の理想」

「バースデーソング」

お客様の紹介

出席報告・会長の時間

委員会報告・幹事報告・SAA報告

○会員・奥様誕生祝い(5月度)

坂田多英様(2日)

○結婚記念祝い(5月度)

新井茂文会員(2日)城岡陽志会員(2日)

田口 隆会員(4日)濱口正義会員(15日)

### 次週の例会

2017年5月19日(金)第1753回

卓話 「未定」

卓話者 鳳フルートアンサンブル

矢野陽子様

紹介者 三上 尚嘉会員

### 前回の例会

2017年4月27日(木)第1751回

例会変更及び「4クラブ合同例会」

於いて、サンパレス4F

受付17時30分～ 点鐘18時00分～

<4月27日(木)の出席報告>

会員数	31名
出席会員	16名
欠席会員	15名
ゲスト	1名
ビジター	0名
3月3日(金)の出席率	90.32%

### 前々回の例会

2017年4月21日(金)第1750回

卓話 「日々雑感」

卓話者 山ノ内 修一会員

今週の歌 「四つのテスト」

「堺北RCの歌」「一寸師」

お客様の紹介

出席報告・会長の時間

委員会報告・幹事報告・SAA報告

○皆出席表彰(4月度)

米澤邦明会員(第5回)中川 澄会員(第7回)

<4月21日(金)の出席報告>

会員数	31名
出席会員	21名
欠席会員	10名
ゲスト	0名
ビジター	1名
3月10日(金)の出席率	93.54%



人類に奉仕するロータリー

2016-17年度 国際ロータリーのテーマ

「人類に奉仕するロータリー」

国際ロータリー会長 ジョンF.ジャーム(米国・チャタヌーガRC)

## 会長の時間(4月21日)

真のプロフェッショナルになるための「あかきたなはまやらわの法則」

会長 中田 学



- (あ) 当たり前な事を当たり前にする。
- (い) 言い訳をせずに打ち込む。
- (う) 疑うのは自分だけ。
- (え) 永遠に初心を忘れない。
- (お) 同じことを二度しない。
- (か) 考えられることをやり尽くす。
- (き) 基本を大切にする。
- (く) 苦しい時でも自分を信じる。
- (け) 結果が出るまでこだわる。
- (こ) 怖くても歩みを止めない。
- (さ) 細心の注意を払う。
- (し) 失敗を次につなげる。
- (す) 捨てる覚悟を持つ。
- (せ) 先入観や常識にとらわれない。
- (そ) 外に目を向けること。
- (た) 妥協せずに真剣に向き合う。
- (ち) 違うやり方を模索し続ける。
- (つ) 強い責任感と愛情を持つ。
- (て) できることを着実にこなす。
- (と) どんな状況でも楽しみを見い出す。
- (な) 何が大切なのか理解する。
- (に) ニーズに応え続ける。
- (ぬ) 抜かりなく準備をする。
- (ね) 寝ている時も考え続ける。
- (の) 残された時間を意識する。
- (は) 早く失敗して、早く改善すること。
- (ひ) 人の心を惹きつけて繋ぐ。
- (ふ) 不可能と思う事でも挑戦する。
- (へ) ベストな判断をする。
- (ほ) 誇りを持ち続ける。
- (ま) 真心を込める。
- (み) みんなが知らないことをする
- (む) 難しいことを単純にする。
- (め) 面倒くさがることをやる。
- (も) モチベーションを維持する
- (や) やり抜いてもさらにやる。
- (ゆ) 揺るぎない信念を、軸を持つ。
- (よ) 余裕がない時もまわりに優しくする。
- (ら) ライバルを尊敬する
- (り) リスクを知っても行動する

- (る) ルールを破っても正しい事をする
- (れ) レスポンスは早くする
- (ろ) ロマンに生きる
- (わ) わからなくても前に突き進む

## SAA(4月21日)

中田 学会員 山ノ内会員今日の卓話はアドリブですか?楽しみにしています。  
 那須宗弘会員 澤井会員、空気の読めない1人をライラに送りますので、宜しくお願い致します。  
 宇瀬治夫会員 堀畑会員、今度は大変お世話に成りました。ありがとうございました。  
 徳田 稔会員 4月、5月良い季節となりました。特に何もありませんが。  
 塩見 守会員 木畑さんお世話になります。山ノ内委員長、先週はすみませんでした。  
 藤永 誉会員 3週連続達成しました。ゴルフの罰金です。

合計 18,000円

## 幹事報告(4月21日)

- (1) 今週の配布物 週報
- (2) 幹事報告
  - ・次週の28日(金)は例会変更27日(木)4クラブ合同例会となっておりますので、お間違いなきようお願い申し上げます。
  - ・5月5日(金)は祝日のため休会です。

2016-17年度地区指導者育成セミナー 2690地区記念講演  
 「ロータリーと茶の心」

茶道裏千家第15代前家元  
 千 玄室

私も長い間ロータリーで活躍しています。先代からロータリーに関わっておりました。私は昭和29年に「京都南クラブのチャーターメンバーでロータリーの創立に尽くせよ」と言われまして、「ちょっと青年会議所活動が忙しくて」と断った。しかし先輩が「そう硬く考えなくてよしい。是非お父さんの意思をついで、将来のロータリーのために活躍してくれ」と言われて、当時29歳だったけれどロータリーに入会。面白いことに、京都南RCは32名で発足したけれど、若手が多く皆が親しめるクラブにしようということになった。その後青年会議所の理事長の時に、月桂冠の大倉さんが会長になられ、幹事をやれと強引に頼まれたのが、私がロータリーに足をどっぷりと着ける由縁になった。



京都南RCで10年間ありとあらゆることをさせていただいて、奉仕というモノは難しいモノだという気持ちでいた訳です。

ところが父が急逝して、「京都RCに戻れ」と言われた。何と言うことだ、大変だ!と実は思った。京都RCに編入して今日で52年。京都南RCでは私だけチャーターメンバーで残っております。名誉会員ですが、京都RCもそういう話が出たが、現役のまま死にたい。京都RCではいろいろ勉強させていただいて、自分なりの大きな目標をある程度、得ることが出来た。奉仕というモノがいかにか大事なことか。これは世界中の方々と肩を並べ、善意の心をもってやろうという大きな人格形成。またあらゆる方々と親交を結び、お互いに信じ合って共に人のために、他の人のために手を貸してあげよう。そういうことが業内にできるという立場をつくるのがロータリーの基本だと、熟知させていただきました。

その後50歳でガバナーをさせていただき、海外も含め40回ほど会長代理を務めました。キリスト教徒は、教会へ礼拝にいったりドネーションすると同時に自分がロータリーで何かできないかと考える。日本人の奉仕という考え方と、外国の方の考え方には少しズレが出る。サービスは神とともに自分があるということを念頭に置いての奉仕が考えられている。米山梅吉氏がアメリカで学ばれたロータリーの一番大きな精神は寛容。次に忍耐。そして慈愛。米山氏は単に奉仕、サービスということだけを念頭にロータリーを日本につくったら、みんな納得しないだろうと思われ、サービスの訳を、布施という言葉に変えて説明すれば日本の方は納得するだろうと考えた。

日本のロータリーができて来年で100周年を迎え、11月27日に東京で財団100周年記念の催しがある。第1回の交換留学生で行われたのが、長年JICAの理事長をされている緒方貞子さんです。緒方さんも大変お年を召されていますが、ご挨拶程度ならと出席をされます。ロータリー財団というのはどういうものであるかまだまだ理解されていない方も、ロータリーを運営する支えになる、両車輪なのです。どっちも止まったらだめなのです。ロータリーを世界中に運営していくための資金を、財団が補っていくことによってロータリーを運営が世界中に回っていく。ロータリアンがお金を出していただくことによって、ロータリー財団は動いていく。両車輪ですから、ぜひ財団のこともご理解頂きたい。

「お茶の心」というモノはロータリーと一緒にありますね。4つのテスト、「みんなのためになるかどうか」ここなんです。そのことだけが奉仕、サービスをうたっているわけです。日本では仏教の教えの中で「布施」というものがある。これは釈尊がお教えになった「六道」の一番トップに掲げられている。次に「特戒」。これだけは破れないというモノはどんな人間でも持たなければならない。だから六道の中で布施、特戒が非常に大事。第3に「忍辱」。辛抱する、忍ぶ。第4番目には「精進」。遊ぶときは大いに遊んだらいい。しかし自分が与えられた職業、与えられた任務を適確に果たしていかなければならない。どんな方でも与えられた職がある。これをロータリーでは VOCATIONAL という。天から与えられた職を全うしないとイケない。精進、いわゆる努力する。そして「禪定」。人間というモノは安らぎを持たなくてはならない。何回いっても緊張する休めの姿勢も必要。ただ休めの姿勢にもピンからキリまであります。どこまで自分が本当に休むことができるのか。そういうことを自分が禪定。そして六道の最後は「智慧」なんです。Wiseness(賢明さ)と Knowledge(知っていること知識情報精通学識見聞)。これが非常に大事。経験というものを踏む、あるいはいろいろなことを見聞する、その両者によって智慧と知識がうまく動いていく。自分の手で自分の体で自分の頭で考えたことをやるというのが、人間にとって与えられた運命であると私は感じているのです。

私は実は戦争から帰ってきて、学業を終えてから家元をつがえないとイケない。そのためには、大徳寺の僧堂で雲水の修行をしないとイケない。軍隊でいろいろ経験しているし、ちょっとやそっとの厳しさは平気という気持ちで入ったのですが。しかし軍隊というものは命令に反すれば殴られ蹴られますが、僧堂に入って驚いたことは自分で何でも探してやらないと命令がない。これは辛いですよ。自分で見つけ出してやらないとイケない。そして一番私が苦しんだのは公安座禅、与えられた問題を頭で考えるのではなくて体全体で思う。その間に、托鉢というものがある。わらじを履いて般若心経を唱えて帰ってきたモノを集めて仏様にお供えて、それからみな頂く。その時、本当に布施という意味が本当に分かった。この奉仕は恵むのではない。自分がそういう立場にあるからお金を出してあるのではない。いわゆる、出ささせていただきます。という気持ちで自分がそれをさせて頂くということが、私は奉仕の根本じゃないかと、海を見ればカモメが飛んでいる、国を見れば煙が立ってみな糶を食べている。貧しい中にも大和な人たちはみんな分け合って助け合って生活をしている。こんな美しい国はない。日本の国というのは「情」なのです。例えば、お茶もそうですけど、いわゆる歌舞伎にしても能楽にしても、すべて情というモノを中心に演じられるわけです。情というモノは、思いやりなのです。人間は思いやりがなかったらダメ。これは「三法印」という教えの中に全部入っている。第一番に「諸行無常」である。何もないというのではない。お互いに世の中を生きていくために助け合っている、それはいろいろな無常がある。自分が思っていないことでも起こってくる。そして次に出てくるのは「諸法無我」。人間とは本来、何者でもないのだ。考えてみればそうです。生まれた時は裸で生まれ、死ぬ時も裸。何も持っていくわけに行かない。死んだときは肩書も名誉も何もない。「無」なのです。裸なのです。そして「涅槃静寂」静かにあの世に行く。そして最後に「一切皆苦」という言葉をつけられた。これは難しく、一切、生きている苦しみをお互いにみんな持っているんだ。その苦しみを少しでも和らげていくためには、自分の心の中を整理して、修練をすることが大事だということです。

ロータリーはI serve から始まる。ではみんなと一緒にやろうじゃないかと We serve となる。クラブがあるから We serve ではない。そのクラブを支えているのはメンバー1人1人。広がっていくことによ

って、初めてI serveがWe serveになっていく。できることをやっというこによって、ロータリークラブが成り立つ。クラブが成り立つことによって地区が成り立つ。

私は2年間アメリカと戦ってきた敗残の一人です。最後の特別攻撃隊、沖縄攻撃から生き残って帰ってきました。いまでも忸怩たる思いをしています。本当にみんな「俺が死んだら家族が助かるんだ、少しでも平和になってくれたら」「無駄な戦争をやめてくれたら」という気持ちでした。みんなそうです。毎日が死との直面でした。我々が死ぬことによって日本は本当に助かるのかという懐疑的な気持ちだった。ですから私も一応地獄の底を見てきて這い上がってきた男です。希少な2年間、海軍軍人として鍛えられたことが、大きな人生の経験であり、二度と得られない経験であり千家の息子として、お茶の家元として立っていく以上に大きな支えになった。

千利休は500年前に朝鮮征伐を身をもって止めました。それが一つの原因で切腹を命ぜられた。変な話ですけど、利休のつくった茶の道は、武士道と共に必要なモノだった。武士道というのは、主君のために、お家のために、家族のためにという気持ちで刀を抜いて戦うだけではない、ひとつの道が茶道によって支えられた。だから茶の道は武士道と共に一緒になった。新渡戸稲造先生がそれをお書きになった。いわゆる「仁、義、礼、智、信、忠、誠」これだけのひとつの道筋というモノがある。それを武家は心得なくてはならない。しかしそれを心得るためには自分が実行に移すものをもたないといけない。それが茶道だった。いわゆる戦国、足利の時代の終わりから、それまでは規則主義である。単にお茶というみんなが茶を点てて勧め合って楽しんでいたモノを利休が茶の道に、武士道と共にしたというのは、日本にとって大変大きな文化の力であったと私は思う。侍といえども茶室に入るときは刀を抜いて丸腰である。そのときは身分も何もなくみんな一緒。このエンブレムを付けていたらみんな一緒だよ、同じお茶室に入ったら、一碗のお茶を「いかがですか」「どうぞ」と勧め合って、いただきます。

「いただきます」という時にお茶碗をまず何回まわしたらいいんですかとよく言われます。今日も庄司家で境港の商工会議所の会頭がお相伴で座っていました、そのときにも申しましたが、回すというのは正面をよけたら良いんだと。お茶碗を回すことによって正面をよける、回すということだけで自分を反省する、顧みるのです。顧みるために回すんです。そして、中の縁の色を見てください。人間は自然と一緒にあります。縁がなかったらわれわれは生きていけません。あの縁の色と一緒にあってゆっくりお茶を召し上がっていただく。その時には、本当に自分が一人間として自然と共に生きていこうとすることを、利休は一碗のお茶で教えたわけです。だから争い事は何もない。「お先、いかがですか」これは「情」の世界ですよ。

何か言ったら五輪を目指し「もてなし」「もてなし」でも、本当の「もてなし」を皆さん知っておられますか？「持って、為す」手を貸してあげましょう。ちょっと重たい荷物を持ってあげましょう。優しい一つの気持ちももてなしであって、もてなしを売りするような安っぽい日本であってはいけません。日本は麗しい情の国であります。お金を出してどうのこうののではない。「いかがですか」「お先」それだけでいいのです。みんな一緒であって、みんな同じモノをいただく。そこに一つの大きな共存共栄の、茶の道というものがある。お茶は点前作法を見ただけで難しいとかいうものではない。スポーツでもみなそうですよ。ルールがある。私も日本馬術連盟の会長をやっていますが、私は8歳くらいから馬に乗せられてきた。馬というあの大きな生き物。これはまた繊細で大変なモノ。これをなだめて乗っていく。スポーツで動物を扱うのは馬術だけです。これは武士道の精神で、馬を扱うことは人様を扱うより難しい。ですから色々面白い話もあります。今回はリオデジャネイロで負けて参りました。2020年には何とか頑張って取り返したい。私もまだ現役で乗っております。馬の世界は年齢制限はございません。100歳でも現役で乗れます。同じ種目を夫婦と一緒に乗っておられたり、ロンドン五輪ではオーストラリアのご夫婦の選手が出られて、奥様が優勝してご主人が3位ということもありました。人馬一体にならないといけない大変なことなのです。私は今でも馬に乗って、馬と共に一碗のお茶をもって頑張って平和のために少しでも努力しているのですが、スポーツでも何でもモノにはルールというものがあ、ルールを知って、ルールを乗り越えることで精神が伝わってくる。

ロータリーのそうです。庄司さん、ガバナーとしてどうですか？寝つきの悪い時に、手続要覧を読めば必ずしらっと寝てしまいますほどの難しいルールはあるけれど、ルールを超えたロータリーの友情、そしてその友情によって皆様方が手を貸してあげようという一つの優しい気持ちを、寛容と忍耐と慈悲。こうした気持ちを養っていただくことが一番私は大切なことだと思います。ロータリーは永遠であります。ロータリーの永遠のために、どうかお茶の道と共にご理解いただけたら、お茶の道も社会文化のためにお役に立つと私は信じて疑わないわけです。ご清聴ありがとうございます。